



十五夜の由来

日本では太古の昔から月は神聖視されていました。古くには縄文時代から月を愛でる風習があったと言われています。

平安時代に月見の宴の風習が中国から伝わると、日本の貴族の間で広まりました。当時のお月見はお酒を楽しみながら、船の上で詩歌や管弦に親しむ高貴な催しでした。貴族たちは空を見上げて月を眺めるのではなく、水面や盃の酒に映った月を楽しんでいたそうです。

庶民が十五夜を楽しむようになったのは江戸時代。月を鑑賞するだけでなく、農作物の豊作祈願、収穫への感謝の意味が込められていました。現在のように月見団子とススキを飾るようになったのは江戸時代後期と言われています。